生物資源学部　生物資源学科

〇ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、各授業科目、アドミッション・ポリシーの対応

	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	各授業科目	アドミッション・ポリシー
①	倫理観・社会性：地域や国際社会が抱える諸問題を解決する技術を開発・提供するために、科学・技術が自然や社会に与える影響を多面的に考え、生物資源の利用に当たって、責任ある方向付けを行うために必要な基礎的素養。	科学・技術が自然や社会に与える影響を多面的に考え、生物資源の利用に当たって、責任ある方向付けに必要な基礎的素養を身につけます。 評価基準: 一般教育科目８単位以上 専門科目１６単位以上を修得すること。	一般教育科目： 人文社会科学系（外国語を除く）科目 専門科目： 必修： 環境生物学 地域生物生産実習 生物資源学概論Ⅰ・Ⅱ 技術者倫理 選択： 16 科目	微生物から高等動植物まで多様な生物に興味と関心を持ち、分子から生物、さらに生態系にまで及ぶ広範な対象を取り扱う科学分野の勉学に強い探究心を持って取り組むことができる学生。
②	自然科学の基礎力：生物化学を幅広く理解し、それを応用するために必要な数学や情報科学と自然科学の基礎知識。	生命科学の幅広い理解と応用のための基礎として、数学、自然科学の知識および情報技術を身につけます。 評価基準: 一般教育科目６単位以上 専門科目１２単位以上を修得すること。	一般教育科目： 自然科学系科目 専門科目： 必修： 数学基礎 統計学基礎 生物学Ⅰ・Ⅱ 化学Ⅰ・Ⅱ	高等学校等において、数学、生物、化学、物理の基礎学力を習得していること。
③	専門能力：生物資源の資源採取・加工・利用や環境保全等のグリーンテクノロジーに関する専門知識ならびにそれを応用する上で必要な知識。	生物資源の資源採取・加工・利用や自然界の保全に関する専門知識ならびにそれを応用する上で必要な知識を身につけます。 評価基準: 専門科目４０単位以上を修得すること。	専門科目： 必修： 遺伝学Ⅰ 生化学Ⅰ 動物生理学 有機化学 微生物学 植物生理学Ⅰ 分析化学 選択： 24 科目	生物資源学を学ぶことで、生物資源にかかわる知識と技術を携え、将来にわたって主体的に活動する意欲と希望を持つことができる学生。
④	情報活用力：急速に発展するデジタル技術を用いて必要な情報を収集・解析し、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成できる能力。	急速に変化する生命科学とそれにかかわる技術に対応するために必要な情報収集能力を身につけるとともに、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につけます。 評価基準: 一般教育科目（外国語） １２単位以上 専門科目８単位を修得すること。	一般教育科目： 外国語・情報科目 専門科目： 必修： 発展英語Ⅰ・Ⅱ 科学英語 専攻演習	高等学校等において、国語、英語、数学、情報の基礎学力を習得している学生。

⑤	課題解決能力:自然環境や社会の持続可能性に配慮するなど限られた条件の下で、生物化学にかかわる技術的な課題を設定・解決する能力、及び、課題解決に向けたグループワークのための対話能力と文章作成能力。	生命科学に関する技術的な課題を、安全や環境に配慮するなど、限られた条件の下で設計・解決する能力を身につける。また、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする能力を身につけます。 評価基準: 専門科目２６単位を修得すること。 各科目の学修成果の評価は、科目ごとにその方法を設定しシラバスに明示します。	専門科目： 必修： 生物学実験 化学実験 応用生物学実験 生物化学実験 植物分子生物学実験 生物活性分子化学実験 生物物理化学実験 植物資源学実験 専門基礎研究 卒業論文	生物資源学を学ぶことで、自分の考えをまわりのひとに的確に伝え、将来にわたって主体的に活動する意欲と希望を持つことができる学生。

生物資源学部　創造農学科

〇ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、各授業科目、アドミッション・ポリシーの対応

<table>
<tr><th>ディプロマ・ポリシー</th><th>カリキュラム・ポリシー</th><th>各授業科目</th><th>アドミッション・ポリシー</th></tr>
<tr><td>① 専門能力：農業、食品業等における資材の調達、生産・加工、流通・消費について、地域資源の活用、脱炭素化、労力軽減・生産性向上等のイノベーションを推進し、豊かな生活を実現する上で必要な食・農・環境に関する知識・技術・経験を習得していると共に、経営戦略やマーケッティング等を学び、経営感覚や新展開能力・開発能力を身につけている。</td><td rowspan="3">1年次では、多面的で柔軟な思考に基づく教養と語学力を養うために、一般教育科目を配置します。さらに、体験を通じた自主的な学びを重視し、専門にかかわる体験学習を 1 年次からスタートします。外部講師の講義や見学学習も配置し、2年次以降の実践教育への準備を行います。</td><td>食農環境・文化概論
農業市場論
農業経営論
実践農業英語
蔬菜園芸学・同実験
花卉園芸学・同実験
果樹園芸学・同実験
雑草管理学・同実験
微生物利用学・同実験
育種学Ⅰ・Ⅱ・同実験
施設園芸学
作物学
食農環境実習Ⅰ・Ⅱ
食品加工実習</td><td rowspan="3">「食と農と環境」に興味と関心を持つとともに、これに関連する様々な体験をしたいという意志があり、将来、農業、食品業などの関連する分野で活躍し、地域資源の最大活用、脱炭素化、労力軽減・生産性向上などのイノベーション推進に貢献しようという意欲と希望を持つ学生を求めます。</td></tr>
<tr><td>② 情報収集能力・コミュニケーション能力：急速に変化する技術に対応するために必要な情報を収集でき、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につけている。</td><td>総合農学
総合的生物多様性管理論
食農環境演習Ⅰ・Ⅱ
先端農業技術活用論</td><td rowspan="2">創造農学科で学ぶためには、高等学校等における幅広い基礎学力が必要です。さらに、自分の考えを自分の言葉で表現でき、他者と適切にコミュニケーションがとれるよう努力することが重要です。</td></tr>
<tr><td>③ 課題解決能力：技術的な課題を、安全や環境に配慮するなど、限られた条件の下で設定・解決する能力を身につけている。また、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする能力を身につけている。</td><td rowspan="2">2年次以降は、農業法人・民間企業、生産者、6次産業者、公設試験研究機関等との関係を密にし、実践者や研究者を招き、または出向いて地域性の高い課題からグローバルな課題の実践教育を行うため、体験を通じて持つ知的好奇心や知識欲に応えうる広範囲な講義を配置し、食・農・環境に関する広範囲な講義に加え、さらに体験学習を強化するとともに、グリーンデジタル、6次産業化の強化、科目履修生の教育強化、食 pro の資格要件を満たす科目を配置します。全ての講義、演習、実習を通して、自ら必要な情報を収集し課題を解決する能力、論理的な報告書が作成できる能力を育成します。未知の問題を解決する能力の育成のために、少人数教育による卒業研究を実施します。また、学生の希望により、学外における卒業研究も可能とします。生物資源学部は、卒業研究を4年間の集大成として位置付けます。
学修成果の評価は、科目ごとに成績評価の方法を設定し、シラバスに明示します。</td><td>農業インターンシップⅠ・Ⅱ
地域農政論・同実験
地域森林利用論
農業戦略論
専攻演習
卒業論文</td></tr>
</table>